

第 3 回府中市市民協働推進会議 会議録

日 時	平成 3 0 年 8 月 1 日 (水) 午後 2 時 ~ 午後 3 時半
会 場	市役所北庁舎 3 階第 5 会議室
出席者	(委員) 藤江会長、長谷部副会長、荒金委員、池上委員、井上委員、奥村委員、 木村委員、草郷委員、谷本委員、宮坂委員、吉井委員 (事務局) 中川市民協働推進部長、前澤協働推進課長、金崎協働推進課長補佐兼 都市交流担当副主幹兼支援係長、新妻協働推進係長、黒田事務職員、 高田事務職員
欠席者	なし
傍聴者	1 名
議 事	1 開会 2 議題 (1) 評価作業 (2) 第三者評価シートの作成及び答申案作成 (2) 提案型協働事業選考部会の検討状況について (3) 平成 3 1 年度提案型協働事業の応募状況等について (4) 府中市市民協働推進行動計画のについて (5) 市民協働の推進に関する条例の可否を含めた検討について (6) その他
資 料	1 府中市協働事業 第三者評価シート (協働事業・案) 2 府中市協働事業 第三者評価シート (平成 2 9 年度提案型協働事 業・案) 3 平成 3 1 年度提案型協働事業応募内容一覧 4 府中市市民協働推進行動計画進行管理シート

1 開会

(会長) 定刻になりましたので、第3回府中市市民協働推進会議を開会します。
事務局から本日の委員の出席状況などについて、報告をお願いします。

(事務局) 本日はご多忙のところ、また、お暑い中本会議にご出席いただき、ありがとうございます。事務局から何点かご報告を申し上げます。

まず、本日の出席状況でございますが、委員の皆様全員にご出席をいただいております。

そのため、本会議は有効に成立しておりますことを併せてご報告します。

続きまして、本日の傍聴ですが、現在までに1名のご応募をいただいております。傍聴の許可につきまして、本会議のご判断をいただきたいと存じます。

(会長) 委員の皆さんにお諮りしますが、傍聴を許可してよろしいでしょうか。

(委員) 異議なし。

(会長) それでは、異議がないということですので、傍聴を許可します。

事務局は会場への誘導をお願いします。

(事務局より資料の確認)

(事務局) 最後に、本日の流れについてでございます。

本日の議題については、5点ございます。

1点目が、第三者評価シートの作成及び答申案の作成についてで、前回のヒアリングの状況等について、各グループで実施した評価結果の共有を行っていただき、市民協働推進会議として第三者評価シートを作成いただきます。

また、事前に送付いたしました、「協働事業評価答申案検討シート」を活用いただき、評価作業を通して感じたことや評価を終えての感想や改善点など、答申の基礎となるご意見を頂戴したいと考えております。

2点目が、提案型協働事業選考部会の検討状況についてで、5月28日に行われた平成29年度提案型協働事業の評価について、部会での検討結果をご報告いただくものでございます。

3点目が、平成31年度の提案型協働事業の応募状況等についてご報告するものでございます。

4点目が、府中市市民協働推進行動計画の平成29年度の進捗状況についてご報告するものでございます。

そして5点目が市民協働の推進に関する条例の要否を含めた検討についてご議論いただく予定でございます。

事務局からは以上でございます。よろしくお願いいたします。

(会長) 事務局から説明があったとおり、今日は審議事項が2件、報告事項が3件と、議題が多いので、早速、議事を進めます。

前回7月19日に実施した第2回目の会議の議事録につきましては、事

前にご確認いただいておりますが、修正等でお気づきの点はございますか。
よろしいでしょうか。

それでは、議事録として確定いたします。

事務局は、前回の議事録及び資料を公開するよう手続きをお願いします。

2 議題

(1) 評価作業(2) 第三者評価シートの作成及び答申案作成

(会長) これより議題に入ります。第三者評価シートの作成及び答申案作成について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) まず、先日のヒアリングは、大変お疲れ様でした。

先にお伝えしたとおり、本日は、前回のヒアリングの状況等について、各グループで実施した評価結果について情報共有していただいたうえで、意見交換を行い、第三者評価シートの修正を行います。

その後、事前に各自でご検討いただいた「協働事業評価答申案検討シート」をもとに、個別の評価を通して感じたことや評価を終えての感想や評価シート自体の改善点などを共有し、答申案の基礎となるご意見をいただきたいと考えております。

なお、答申案の構成としては、概ね昨年度の答申と同様に、評価に当たった視点や感想、改善点などの総評、各事業の第三者評価シート、そして、提案型協働事業選考結果、市民協働の推進に関する条例の要否を含めた検討結果と、資料編として、当会議の委員名簿、主な検討経過、協働事業等評価実施基準、評価シートの様式、市民提案型協働事業補助金交付要綱、委員意見などを想定しております。

今回の会議では、資料として、全体をまとめた答申案の形でご提示することができればと考えておりますので、よろしくお願いします。

それでは、資料1をご覧ください。

前回の会議において、グループに分かれて事業のヒアリングを行っていただいたのち、各グループでの意見交換を踏まえ、評価作業を行っていただきました。

詳細につきましては、各グループの委員にご報告いただければと思いますが、参考1として、質疑応答や評価に関する意見交換を添付しておりますので、適宜ご参照ください。

事務局からは以上でございます。

(会長) 今回の会議では、会議体として第三者評価シートを作成することと、答申案の意見出しが中心となります。

また、次年度に向けて、より評価がしやすくなるよう、第三者評価シート自体の意見出しも行います。

まずは、各事業について情報共有ということで、各グループの評価のバ

ランスを考慮する意味も含めて、各グループの発表を聞いたうえで、質疑応答を行い、本会議として各事業の評価結果を決定したいと考えています。

その後、全体を通じて感じたことなどについて、意見をいただく、という流れで進めたいと思いますがいかがでしょうか。

それでは、1グループの事業についてご報告をお願いします。

- (委員) 1グループは、ふちゅう子育て応援連絡会と子育て支援課が実施している、ひろげよう！子育てひろばのわについて、ヒアリングを実施しました。評価結果としては、Bとしました。

Aに近いBやBに近いAといった評価が出ましたが、結果Bとしました。

評価に当たって、事業そのものの評価ではなく、協働の観点から質問をしたところ、相互理解や情報共有の点で市民と市に少しギャップがあるように感じました。

理由としては、費用・会場確保の面での協力は見受けられましたが、市民の気持ちが先行していて、市が立場の垣根を一步越えて協力できるのではないかと思い、今後の期待を込めてBとしました。

他の委員にも補足があればお願いしたいと思います。

- (委員) 事業について補足はありませんが、評価の仕方は、A、B、C、D、Eの5段階評価ですが、それぞれの評価内で振幅があり、その振幅を表現することが難しいため、評価シートを改善する必要があると思います。

- (委員) 先の説明のとおりですが、素晴らしい事業だと思いました。事業を始めたきっかけも両者が必要だと感じていて、目的意識も統一できていましたし、信頼関係も構築されていました。一方で、市の担当者としても新たな課題や提案に対して、素早く対応できないなどの課題も認識されていて、前向きであるからこそ、課題として感じており、Aに近いBということで、Bとしました。

- (会長) では、次に第2グループの事業について、ご報告をお願いします。

- (委員) 第2グループは、ちびっ子ふれあい文化祭の評価をしました。

事業実施者は、府中ちびっ子ふれあい文化祭実行委員と地域コミュニティ課です。

事業目的は、地域の子どもたちの交流を通じたコミュニティ活動の活性・拡充で、事業内容は、文化センターで活動している小中学生が一堂に会し、活動の成果発表を行うもので、事業目標は、ふれあい及びリーダー養成を目的に実施することです。

評価としては、Aとしました。

評価結論としては、子どもたちの学びや創造の場として、積極的かつ有効な取組である。

役割分担ができており、互いを理解し尊重し合っている。情報共有もできており、課題を解決しながら取り組んでいる。

過去の参加者が当事業に関わるができる仕組みをつくることで、更なる発展が期待できるとしました。

この事業は、小学１年生から中学３年生までの幅広い参加者がいる事業のため中学３年生を卒業してしまった子がＯＢとして参加することで、事業が円滑に回り、より発展していくのではないかという意見がありました。

また、市民と市で問題点の共有など情報共有も行い、解決できていたため、評価をＡとしました。

（委員） 過去の参加者が、サプリーダーとして関わり、積み重なっていくことで、より発展すると思いました。

しかし、子どもたちも高校生になると忙しくなるため、過去の参加者全員がサプリーダーとして関わることはできないが、一部の子は関わってくれるということで、上方に推移していると思います。

（会長） 世代が代わる中で、継承していくことが大事で、そこはできているということと、役割分担も明確で、マンネリ化することなく実施できていると思いました。

では、次に第３グループの事業について、ご報告をお願いします。

（委員） 第３グループは、武蔵府中熊野神社古墳まつりの評価をしました。

事業実施者は武蔵府中熊野神社古墳保存会、ふるさと文化財課です。

評価結論としては、Ａとしました。

理由としては、市民と市が密にコミュニケーションを取り合っていて、協働が浸透している点が評価できました。

他の古墳を活用した事業でも連携しているので、日頃からコミュニケーションが取れていて、武蔵府中熊野神社古墳保存会の会議にもふるさと文化財課の職員が参加するなど密に連絡がとれていることができていました。

課題として、屋外の開催のため天候に左右されることや、まつりの浸透具合が西府圏域に留まっている点などがありましたが、課題についても共有し、認識している点もＡ評価に値すると思いました。

（委員） 協働事業の中でも、文化事業は難しい事業だと思いますが、その中で協働という形で実施しているところは評価できるとしました。

また、教育機関等に働きかけることによって、教育分野でも協働の広がりの可能性を持っており、今後に期待できるとしました。

（委員） ご報告のとおり当事業に限らず、資料館の管理・運営も協働で行っていて、日頃から密にコミュニケーションが取れていて、互いの事情などの理解し合っていました。予算の面で、市民側の持ち出しが出てしまうなどの課題やその理由も共有出来ていて、解決に向けて互いに尊重し合っていると思いました。

（会長） ありがとうございます。３つの事業について、それぞれ担当のグループからご報告をいただきました。これから全体としての評価を作成するため

に質疑応答に移りたいと思いますが、質問のある委員の方は、事業名を言っていたら、それについて質問等をお願いします。

それでは、質問等ございますでしょうか。

(副会長) 第2グループのちびっ子ふれあい文化祭について確認ですが、小学1年生から中学3年生の時に参加していた子たちが、高校生になった後にOBとして関わる仕組みはすでにあるのか、それとも、あった方がよいということかどちらでしょうか。

(委員) 今はありませんが、あった方がよいということです。

(会長) 11の文化センターで活動している子どもたちが集まるので、家族が見に来たり、ご兄弟がいらっしゃる方などは、協力してくださっていたり、などしています。

(委員) 実行委員はどういう方で構成されているのですか。

(委員) 文化センターで活動している団体の指導員の方です。

(事務局) 委員がおっしゃっている通り、児童館連絡協議会という各文化センターの児童館事業に関わる指導員の方や、職員等計22名が実行委員として関わっています。

(会長) 評価がAが2つとBが1つですが、評価そのものについてのご質問はよろしいでしょうか。例年、Aに近いBなど評価が悩ましいところがありましたが、ご意見など無いようでしたら市民協働推進会議の評価として確定したいと思いますが、よろしいでしょうか。

「ひろげよう！子育てひろばのわ」についてはB評価、「ちびっ子ふれあい文化祭」についてはA評価、「武蔵府中熊野神社古墳まつり」についてはA評価ということによろしいでしょうか。

(委員) 異議なし。

(会長) では、以上の内容で評価を確定します。

続いて、個別の評価を通して、共通して感じたことや評価を終えての感想、次年度に向けての改善点等について、評価シート自体とは切り離して議論したいと思いますがいかがでしょうか。

時間配分は良かったと思います。作業の手順としても、事前に評価の共通の部分など、事業自体の評価行うのではなく、協働の視点での評価を行うということを当日共有してヒアリングに望めて、スムーズに行えたと思います。

その他、お気づきの点があれば、ご指摘いただきたいと思います。

(委員) 評価シートの項目が1から5まで分かれているが、1の評価結論と5のまとめは類似性があるように感じますので、1つにまとめて簡素にした方がよいと思います。

また今回、ひろげよう！子育てひろばのわの評価はBとなりましたが、A

に近いBであるというような評価が今の評価方法では表現しきれないので、A、B、Cあたりを細かく分類して、例えばA+、A-などの方がより評価しやすいのではないかと思います。

(会長) ありがとうございます。全体の感想ということで、評価シートのフォーマットと5段階評価について切り離せない部分がありますので、その点も含めた意見をいただきました。

5段階評価について、アルファベットだけでは伝わりづらいので、説明で真意を伝えていくように行っていますが、意見があったように、A、B、Cを更に細かく分けて、D評価のニュアンスも細かく伝えることができるように検討するとよいのではないかとということと、評価シートの項目について、意見交換会のヒアリングシートとの対応も含めて、重なっている部分の統合等、違う形を検討しても良いのではないかと意見をいただきました。

その他いかがでしょうか。

(委員) 事前に資料をいただいておりますが、当日の追加資料があったため、より事業の内容が分かる資料があるのであれば、事前にいただくと効果的な質問ができると思いました。

(委員) 協働の視点で評価を行うことについて、事前の共有が良かったと思います。

しかし、そもそもの事業自体と協働の視点がまとめながらですと、混在してしまいがちになってしまいます、例えば、第三者評価シートの事業についての項目は、事業自体のKPIについてなのか、事業を行うに当たっての協働の視点なのか曖昧であるとか、協働の広がりの可能性という項目は、協働の視点についてと今後の広がりについてのように、項目を分けた方がより明確になるのではないかと感じました。

また、意見交換会を踏まえての項目は、意見交換をしながら書くのは難しいですし、この評価シート自体が、意見交換会を踏まえたものになるのではないかと感じました。

(会長) 事前の共有の大切さと、それを踏まえてヒアリングを行うということでは、コンセンサスができていましたが、事業自体の評価との分け方や、フォーマットの工夫が必要ではないかという意見をいただきました。

その他いかがでしょうか。

(委員) 協働事業として、単年度で実施する事業か、継続性のある事業であるかは重要だと思います。継続して実施することは、単年度に比べて難しいと思いますので、継続性についても評価に当たって考慮した方がよいのではないかと

と思いました。

(会長) 今いただいた意見もそうですが、第三者評価シートの項目それぞれに段階別評価を行い、それを単純な足し算ではなく、総合的に評価を行うようなフォーマットも良いと思います。

また、事業毎に特徴を評価するような視点を取り入れるのも良いのではないかという意見をいただきました。

私の意見ですが、全てのグループで共通の質問が3つくらいあると、意外と時間を使ってしまう中で、事業の特徴について質問する時間が十分に取れないと困りますので、どれだけ時間を設けるかは難しいですが、確認すべきことをちゃんと聞く時間は必要だと思いました。

その他、評価シートも含めて全体としてのご意見や改善点等ありましたら、お願いします。よろしいでしょうか。

それでは、事務局は意見等を踏まえ、次回の答申案に向けた資料作成をお願いします。

(2) 提案型協働事業選考部会の検討状況について

(会長) 続きまして、議題2「提案型協働事業選考部会の検討状況」について、部会長からご報告をお願いします。

(部会長) 提案型協働事業選考部会ですが、5月28日に開催された平成29年度の市民提案型協働事業の報告会に出席し、部会として4事業の評価を実施しました。

評価結果については資料2のとおり、シンポジウム「もっと公園に行こう！」がA評価「協働事業として適切で優れていると評価できる。」で、それ以外の3事業がB評価「協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。」としています。

まずA評価とした『シンポジウム「もっと公園に行こう！」』ですが、「相互理解ができています。事業計画時から行程表を作成するなど情報共有を行いながら、共通の課題を認識し、今ある公園の課題解決や魅力ある公園づくりに向けて一体感をもって取り組んでいた。双方が多くの主体と接点をもつなど、多世代が関わることができる戦略をもつとともに、広い視野で事業を展開することで更なる広がりが得られることを期待する。」としました。

次に、「マイ・ベスト・チャレンジ! 2017」は、「時宜に適した事業であるが、双方が遠慮しがちである。役割を固定化せず、お互いの強みを理解し、いかし合うことで、スポーツ人口の拡大など更なる発展が期待できる。」としました。

次に、「市民協働啓発動画の制作」ですが、「団体と担当課とのコミュニケ

ーションが取れており、多くの人を巻き込みながら協働を広く知らしめるよう工夫をしている。市として前例がないところに取り組むことができたことは協働の意義がある。完成した動画の活用方法について、ビジョンを明確にするとともに、具体的な内容を取り入れた今後に期待したい。」としました。

次に、「行政提案型協働事業ミニシンポジウム」ですが、「綿密な話し合いによる情報共有と相互理解ができている。互いに努力しながら協働の視点を持ち事業を実施しているが、集客に課題が残った。課題解決に向けた市側の積極的な取組や支援に期待したい。」としました。

A評価とした事業は、相互理解や情報共有がしっかりとできており、課題解決に向けた一体感がありました。双方が協働事業の効果を実感しており、今後の継続性や発展性にも期待してA評価としました。

B評価とした事業はいずれも協働の成果は得られているものの、会場確保等、物理的な支援に留まってしまっているものや、成果物の活用ビジョンが不明確であるもの、集客に課題が残ったものなど一部に課題がありました。

今後に期待する意味を込めてB評価としたものです。

私からは以上ですが、部会員の皆さんから何かありますか。

(会長) よろしいでしょうか。部会長からご報告がありましたが、委員の皆さんから質問はございますか。

それでは、評価結果について確認いたします。

平成29年度市民提案型協働事業の評価結果は、『シンポジウム「もっと公園に行こう！」』がA評価、それ以外の3事業がB評価ということでよろしいでしょうか。

(委員) 異議なし。

(会長) 提案型協働事業選考部会員の皆さま、短い時間の中で4事業の評価はハードだったと思います。大変お疲れ様でした。

今回は、答申案全般について、確認し、議論していくことになりますので、事務局は、資料作成をお願いします。

(3) 平成31年度提案型協働事業の応募状況等について

(会長) 続きまして、議題3「平成31年度提案型協働事業の応募状況等」について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) それでは、「平成31年度提案型協働事業応募状況」について、ご説明します。

まず、平成31年度の提案型協働事業につきましては、例年と2点変更がございます。

1点目は、事前相談先を協働推進課から市民活動センターに変更し、相談時間の拡大を図ったものです。

2点目は、これまで単年度のみでの提案でしたが、2か年までの事業提案を

可能としたものです。

恐れ入りますが、資料3をご覧ください。

平成31年度に実施を希望する事業につきましては、5月11日から、6月1日までの期間を事前相談期間、7月4日を提案書提出期間とし、提案団体、担当課、市民活動センターと協働推進課との四者打合せを経て、最終的に、市民提案型協働事業については5事業、行政提案型協働事業1事業の計6事業となりました。

提案をいただいた各事業の概要について、市民提案型協働事業からご説明します。

1件目の事業ですが、a c t 6 3 4 府中により提案された「ミズベリング i n 府中 2 0 1 9」です。

これは、全国で実施されている「全国一斉！水辺で乾杯」の実施に合わせた、水辺と関連した多様な体験型イベントを実施するものです。

担当課は生活環境部環境政策課及び都市整備部公園緑地課です。

2件目の事業ですが、府中カルチャー＆コネクションズにより提案された「市民と留学生との相互の異文化コミュニケーション事業」です。

これは、地域の市民と留学生がテーブルを囲んで交流するイベント及び府中の祭りや府中市民の日常生活をはじめ、日本の文化を体験できる企画を実施するものです。

担当課は市民協働推進部協働推進課です。

3件目の事業ですが、おはなしキャンプにより提案された「読み聞かせフェスティバル」です。

これは、市内読み聞かせ実施団体による、読み聞かせ、紙芝居・劇・パネルシアター、手遊び、工作や体験などのワークショップ、絵本交換会、幼児や子ども向け絵本、ユニバーサルブック、グッズ等の販売するものです。

担当課は文化スポーツ部図書館です。

4件目の事業ですが、N P O 法人アビリティクラブたすけあい府中たすけあいワーカーズぽぽにより提案された「認知症への理解を深める学習会の開催」です。

これは、認知症模擬演技者（S P S D）による、認知症の方の心を理解する学習会を実施するものです。

担当課は福祉保健部高齢者支援課です。

5件目の事業ですが、N P O 法人地域教育ネット、N P O 法人府中市民活動支援センターにより提案された「中学生と大学生が学び合うアクティブラーニング・プログラム」です。

これは、グループ活動を中心とした体験プログラムやディスカッションを取り入れた課題解決型の学習であるアクティブラーニング・プログラムの実施、キャンパスを利用した体験イベントの実施、大学・教員・学習支援者向

けワークショップと研修を実施するものです。

担当課は教育部指導室です。

続いて行政提案型協働事業についてご説明します。

恐れ入りますが、裏面をご覧ください。

行政提案型協働事業として担当課より提案があったテーマは1件でございまして、福祉保健部地域福祉推進課が提案した「バリアフリーマップ作成」でございました。

今回市民より提案があったのは、1件でございまして、a c t 6 3 4 府中により提案された「みんなで作ろうバリアフリーマップ」という事業です。

これは、バリアフリーマップの作成及び、マップの作成に向けた障害者制度の勉強会やまち歩き探検の実施するものです。

事業についての説明は以上でございしますが、この6事業について8月6日（月）に公開プレゼンテーションを開催しますので、提案型協働事業部会員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。事務局からは以上でございします。

（会長） 第1回の会議でもお伝えしましたが、会議の規則で部会の委員と部会長は会長が指名できることになっています。

吉井部会長には引き続き部会長をお願いします。そして、木村委員と宮坂委員をお願いしたいと考えております。

それではお忙しい中申し訳ありませんが、よろしくお願いします。

その他、質問はありますか。

私から1つ質問ですが、a c t 6 3 4 府中は、どのような団体でしょうか。

（事務局） a c t 6 3 4 府中は、府中市を中心とした多摩地域のまちづくり、自然環境、文化、教育、多世代交流などについて、多様な主体の力を合わせて、府中市を中心とした多摩地域の未来を自由な創意工夫により創造するために活動することを目的としている団体で、映画の上映会やミズベリングへの協力、ボッチャ体験など様々な活動をされている団体です。

（会長） ありがとうございます。今説明いただいた通り、様々な分野で活動をされていて環境政策課との協働事業、バリアフリーマップの作成の提案をいただいたとのことです。

その他、議題3について質問はありますか。

（4） 府中市市民協働推進行動計画の進捗状況について

（会長） 続いて、議題4「府中市市民協働推進行動計画の進捗状況について」について、事務局から説明をお願いします。

（事務局） それでは説明をいたします。

恐れ入りますが、資料4「府中市市民協働推進行動計画進行管理シート」をご覧ください。

施策としては、42施策ございしますが、番号17「中間支援組織の育成及

び運営支援」が、平成２８年度に完了しているため、平成２９年度は４１施策が対象でございます。

４１施策中、「完了」が２施策、「計画通りに進んでいる」が３３施策、「計画通りに進んでいない」が６施策、「未着手」はございません。

「完了」した施策からご説明します。

１つ目が、番号１２「職員が公益的な活動に参加しやすい環境づくりの検討」でございまして、平成２９年７月１日からボランティア休暇の対象範囲の拡大を行ったため、完了となったものでございます。

２つ目が番号３９「市民協働推進行動計画の見直し」でございます。

続きまして、「計画通りに進んでいない」施策の１つ目が、番号１０「企業との協働を推進するための各種仕組みの整備」で、他市の事例等を中心に調査を行うとともに、市民活動センターと、企業による協働の取組やＣＳＲの活動の紹介など、情報共有の仕組みについて協議したものの、積極的に取り組む必要があることが理由でございます。

２つ目が番号２０「市民活動拠点施設における指定管理者制度の導入」で、全体工事のスケジュール変更により当初の予定より遅れたが、平成２９年４月より指定管理者による管理・運営が開始されたものでございます。

３つ目が番号２１「市民活動拠点施設の運営に係る市民意見の反映」でございまして、利用者アンケートなどを実施し、市民意見を施設運営へ反映させる仕組み作りを開始したものの、運営協議会の設置については検討にとどまったことが理由でございます。

４つ目が番号３３「市民協働推進委員会の設置」で、協働可能性調査等の実施時期の見直しにより、適切なタイミングで開催ができず、情報交換の機会が減ってしまったことが理由でございます。

５つ目が番号３５「附属機関等に係る公募市民枠の拡充」で、前年度比マイナス３．７ポイントであることが理由でございます。

６つ目が番号３７「評価結果等の共有及び改善に向けた取組の実施」で、実績調査等の実施時期の見直しにより、事業への反映のタイミングを含めて検討する必要があるため、評価対象事業の後追い調査が未実施であることが理由でございます。

なお、「府中市協働事業等評価制度実施基準」において、行動計画の推進方策に位置付けられている各種取組についても、原則として、毎年度、進捗状況を把握し、本会議に報告することとなっております。

事務局からは以上でございます。

(会長) ありがとうございます。説明が終わりました。

今年も災害が多いですが、ボランティア休暇は目的が災害派遣のように業務の場合と個人の場合があると思いますが、実績として記載されている16件の内容はどのようなものですか。

また、目的によって休暇の取得のしやすさなどの特徴があれば、併せて伺いたいと思います。

(事務局) ボランティア休暇の7人16件の実績の詳細については、回答をいただいていませので、後追いとして情報提供依頼を行おうと考えております。

元々、ボランティア休暇自体については、会長がおっしゃっていただいた通り、災害派遣の部分が一つと、自分の身内ではない高齢者・障害者施設への福祉ボランティアというのが、ボランティア休暇として位置づけられ、5日間という期間が設けられていました。

しかし、中々取得しづらい状況であったため、PTAや自治会活動などの地域活動や、市民活動にも対象を広げたとともに、午前又は、午後の時間単位での取得が可能になったことが拡大したこととして挙げられます。

いずれにしても、ボランティア休暇を取得するに当たり、事前申請と報告の提出は必要ですが、時間の改善による取りやすさは挙げられると思います。

(会長) その他、ご質問はありますか。よろしいでしょうか。

それでは、府中市市民協働推進行動計画の進捗状況について計画通りに進んでいない事業の説明でしたが、引き続き進捗状況に関心を持っていきたいと思います。

(5) 市民協働の推進に関する条例の要否を含めた検討について

(会長) では、続いて議題5「市民協働の推進に関する条例の要否を含めた検討」に移りたいと思います。これについては、第1回の会議で引継ぎも含めて、これまでの経緯について説明がありましたので、重複も若干あるかと思いますが、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 昨年度の答申において、「協働推進の条例化により、その方向性を更に強化にし、基本姿勢をより明確にする役割や機能があるのは一理あるが、未だ議論が十分尽くされたとは言い難く、他の自治体の事例検証や比較等、継続的にかつ慎重に審議することが適当である。」とし、必要か不要か現時点では判断がつかないため継続審議とすることとしました。

これに基づき、人口規模が同程度の自治体9市を対象とした事例の調査及び先進自治体である長崎市の視察を行い、本年第1回の会議で結果をご報告しました。

「条例を府中市で作る必要があるのか、改めて考えさせられた。自治基本条例があって、その中に加えるのが良いのか、それ自体も果たして府中市に

必要なのかということや、条例による効果も薄いということであれば、条例よりも実働の協働を推進するための何かの方が良いのでは。」というご意見がありました。

また、「大事なのは条例の内容なので、内容の質を担保できるように検討を行う上で、条例の内容についての資料が欲しい。」というご意見や、「都内で条例を制定している大田区と狛江市の資料が欲しい」というご意見がありました。

それを踏まえまして、都内で条例を制定している大田区と狛江市に調査を行いましたので、結果をご報告します。

恐れ入りますが、参考２「市民協働の推進に関する条例調査票」をご覧ください。

人口規模について簡単にご説明いたしますと、大田区は約 71 万人、狛江市は約 8 万人です。

まず、自治基本条例やまちづくり条例など、自治体運営の基本原則を定めた条例についてご報告します。

大田区からまちづくり条例として 3 点回答はありますが、いずれも自治体運営の基本原則を定めるものではありませんので、2 市とも制定はありません。

参考までにですが、大田区の地域力を活かしたまちづくり条例ですが、これは良好なまちなみを保全・形成し、無秩序な開発を防ぐための条例です。

続きまして、附属機関の設置や情報公開条例、個人情報保護に関する条例については、いずれの自治体でも個別に制定しているものです。

続きまして、条例の制定の経緯については、大田区が区の発議、狛江市については市長の公約となっております。

制定後の成果としては、市民・職員ともに、認知度や意識の向上や協働事業が増えたといった成果があげられております。

また、狛江市においては、市民参加手続の必要性についての問合せが増加するとともに、整備されていなかった制度が整備されたといった結果がありました。

続きまして、条例を浸透させるための取組や制度設計については、2 市とも実施しており、大田区については、地域活動を行う団体や区民が交流するイベントである「NPO・区民活動フォーラム」や地域力応援基金助成事業を実施し、狛江市については、市民参加と市民協働の推進指針や職員向けのマニュアルを作成したとのことです。

恐れ入りますが、ページをめくっていただき、「市民活動・協働を推進するための取組や事業の経緯」をご覧ください。

大田区と狛江市の取組の概要について、ご説明します。

大田区については、平成 12 年度に、長期基本計画、府中市で言う総合計

画において、協働を基軸として取組がスタートしました。

平成 14 年度には、区民生活部に区民活動担当を設置し、会議体を設置し、平成 17 年度に「大田区区民協働推進条例」を施行しました。

その後、平成 19 年度には「NPO・区民フォーラム」の開始、平成 20 年度に、「協働ハンドブック」を作成しました。

次に、狛江市については、平成 8 年度に、市長の公約として、「市民参加の基本条例」の制定を掲げました。平成 13 年度には、市民協働課を設置し、平成 15 年度に、「市民参加と市民協働の推進移管する基本条例」を施行させ、さらに、「市民参加と市民協働の推進指針」を策定、平成 16 年度には「市民参加と市民協働に関する審議会」にて、総合的評価を開始しました。

平成 18 年度には、基本条例を改正し、平成 19 年度に市民参加手続提案制度や市民協働事業提案制度を施行し、平成 28 年度には市民活動支援センターを開設するなど、取り組んでおります。

続きまして、「大田区区民協働推進条例」をご覧ください。

条例の構成につきましては、目的、定義、基本理念、区民の役割、区民活動団体の役割、事業者の役割、区の役割、基本施策等、委任となっております。

続きまして、「狛江市の市民参加と市民協働の推進に関する基本条例」をご覧ください。

条例の構成としては、総則、市民参加の手続き、市民投票、市民協働、狛江市市民参加と市民協働に関する審議会等、雑則となっております。

事務局からは、以上でございます。

(会長) ありがとうございました。

大田区と狛江市について調査していただいて、市民協働の推進に関する条例については、自治基本条例やまちづくり条例、住民自治に基づく自治体運営の基本原則を定めた条例があるのかといった部分や、条例制定後に、市民や職員に変化や効果があったかどうか。

さらには、市民協働の推進に関する条例を浸透させていくということについての制度設計や工夫について報告していただきました。

報告があったことについて、何かご意見やご質問があればお願いします。

また、次回も条例については検討していくことになりますが、今回は調査していただいた、大田区と狛江市についてご意見をいただければと思います。

確認ですが、基本条例はどちらの自治体もないということによろしいでしょうか。

(事務局) その通りです。

(会長) 大田区では、条例制定後に協働の認知度や意識が向上したとありますが、条例を作ったプロセスが影響しているのか、あるいは条例があるから認知度や意識が向上したのかについては、条例を作るか検討するに当たって大事な

と思いますが、いかがでしょうか。

(事務局) 以前調査を行った9市を含め、大田区、狛江市ともに、プロセスの過程で認知度が向上してきたのか、もしくは条例があるから認知度が向上したのかといったところまで調査を行っていないため、申し訳ございませんが、状況についてご説明できません。

(会長) 条例制定後に変化があったということで、条例があるということ自体が直接の原因となった部分もあるとは思いますが、それだけではないと思います。

狛江市の場合には、市民参加についても具体的な取組のプロセスや手順が明確化されることによって協働事業が増えていったということで、人口が少ないことが、小回りの利く動きを作り出しているのかとも思いました。

その他、ご質問はありますか。

(委員) 大田区では、大田区区民協働推進条例が平成17年4月に施行されていますが、同時並行で、大田区安全で安心なまちづくり条例も施行しているのでしょうか。

(事務局) その通りです。

(委員) 大田区区民協働推進条例と大田区安全で安心なまちづくり条例はどのような関係性ですか。

(事務局) 大田区安全で安心なまちづくり条例については、犯罪の防止に関する取組の条例で、協働に関する部分とは異なります。

(委員) 昨年長崎に条例の調査で視察に行かれたと思いますので、可能な限り調査表に長崎での調査についても記載していただくと比較がしやすいかと思いました。

(会長) 条例制定後の経過など印象に残る部分もありましたし、市民協働の推進に関わる部分で比較ができる資料を作成いただけると、検討しやすいと思いますので、次回の資料のリクエストということで、事務局にお願いします。

その他、いかがでしょうか。

(委員) 大田区と狛江市を調査対象に選んだ理由と、大田区の市民活動・協働を推進するための取組や事業の経過について、平成23年度から平成28年度は何もされていないのかを伺いたいと思います。

(事務局) 大田区と狛江市の2自治体を選んだ理由ですが、昨年度全国913市から協働に関する条例を策定している自治体を検索したところ、93自治体が協働に関する条例を策定していました。その中で、都内でタイトルの中に協働の文言が含まれている条例については大田区と狛江市のみが策定しておりましたので、この2自治体を選んだものでございます。

また、自治基本条例で協働や参画を捉えているものについては、文京区、墨田区、中野区、杉並区、豊島区、板橋区、八王子市など、表現は異なりますが、それぞれ条例を策定しているところはございます。

2つ目のご質問で、大田区の平成23年度以降の取組については回答がな

かったため、ホームページ等でも確認いたしましたが、不明確でした。

実際にホームページ等を調べた中で感じたことなので、事実かどうか定かではございませんが、平成12年度の大田区長期基本計画「おおたプラン2015」では、基本姿勢を区民との協働としていましたが、総合計画の改定により、協働よりも地域力の推進に力を入れるようになったことが原因の一部に挙げられるのではないかと感じました。

(会長) 資料の通り、平成8年度に狛江市の場合は市民参加の基本条例ということで、市民参加を推し進めていました。当時は、まだ協働という言葉がポピュラーではなかったので表現の仕方が異なっていたり、政策的な方針などによって取組への力の入れ具合が変わったりすると思います。キーワードは協働ですが、同じことを指しながら、地域によって表現や広がりも少し違うと思いますので、そういったことを把握していくことも大事だと思いました。

その他、いかがでしょうか。資料作成のリクエストなども、次回の検討に関わってくると思いますのでご意見をいただければと思います。

よろしいでしょうか。次回も条例について検討する時間はありますし、資料についても、この後思いついたことがあれば、事務局にご意見をいただければと思います。

それでは、ご意見などないようでしたら、本日はこの辺りとさせていただきます、次回、引き続き議論したいと思います。

事務局は資料作成をよろしくお願いいたします。

それでは、議題6のその他として事務局から何かありますか。

(事務局) 事務局から、2点ございます。

1点目が「協働事業評価答申案検討シート」についてでございます。

答申案作成の参考とするため、会議終了後に検討シートを事務局にお渡しください。

2点目が、次回の会議の日程についてです。

8月23日(木)午前10時から、北庁舎3階第4会議室で行います。

内容としましては、3点ございまして、1点目が平成29年度協働事業等評価結果答申(案)の確認について、2点目が平成31年度提案型協働事業の答申(案)について、3点目が協働に関する条例検討結果答申(案)です。

8月6日に提案型協働事業の選考が行われる関係で、2点目の資料については、状況により当日の配付となる可能性がございますので、ご承知おきください。事務局からは以上でございます。

(会長) それでは、次回の会議は8月23日ということで、よろしくお願いいたします。

他になければ、以上をもちまして、閉会します。お疲れさまでした。

以 上